

しんじょう市議会だより

No.127
2015.2.25



新庄市消防団出初式から

平成26年度一般会計は2億5,892万円を追加し、

総額

175億2,664万円に決定

本会議の審議から

11月臨時会、12月定例会に市長から出された主な案件は、

- ①新庄市特別職の職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例の制定について
 - ②新庄市市税条例の一部を改正する条例の制定について
 - ③新庄市いじめ防止対策推進条例の設定について
 - ④新庄市民文化会館の管理を行わせる指定管理者の指定について
 - ⑤新庄市体育施設設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について
 - ⑥平成26年度新庄市一般会計補正予算（第5号）
- 加えて、議員より米の需給安定対策に関する意見書の提出について等の議案3件が提出され合計で30件でした。慎重審議の結果、原案のとおり、1件了承、29件を可決しました。一般会計補正予算は、歳入、歳出それぞれに2億5,892万円を追加し、総額175億2,664万円となりました。
- それでは本会議で話し合われた内容を紹介します。

萩野地区小中一貫教育校建設工事の内機械設備工事請負契約の締結について一部変更について

Q 天井の高い学童保育室内にメンテナン用に歩廊を設置するということは、どうということですか。

A 天井が高い構造になっていて、エアコンと換気扇が設置されています。今後のメンテナンスを想定した場合、その都度足場を組んだりすることを避けるため、管理用の鉄製の歩廊を設置するものです。

新庄市いじめ防止対策推進条例の設定について

Q いじめ防止推進連絡協議会の構成員に警察署の職員を含めるのはなぜですか。

A 警察署の職員については生活安全課の方を想定しています。プライバシー等に十分配慮して進めます。

補正予算の審議から

公衆便所管理運営事業費

Q ごこの公衆便所をどのように改修するのですか。

A 本町の公衆便所を洋式化して改修するもので、男子用(小)を3基、

(大)を1基、女子用を5基、身障者用・多目的用として男女それぞれ1基ずつ設置するというものです。

道路・雪対策等

Q 泉田二枚橋線整備事業費3,000万円や沖の町・中山町線ほか流雪溝整備事業費2,909万円のそれぞれを減額する理由は何ですか。

A いずれも国の社会資本整備総合交付金の一律40%減額に伴うものです。要望活動を継続していきます。

農業振興費

Q 国県支出による6次産業化推進事業費7万8,000円の使途について伺います。

A 雇用拡大関係事業で、6次産業化に携わる地域に根ざした事業者との間で新規農産物の研究や特産物の開発を進めるための相談員の人件費です。物産協会に業務委託をします。

この冬も
大雪よのおー
ケガなどせぬよう
気をつけてなっ



11月臨時会で審議された議案等

| 種類 | 番号 | 件名 | 結果 |
|--------|------|----------------------------|----|
| 【市長提出】 | | | |
| 議案 | 第72号 | 平成26年度新庄市一般会計補正予算(第3号)について | 可決 |

12月定例会で審議された議案等

| 種類 | 番号 | 件名 | 結果 |
|--------|------|--|----|
| 【市長提出】 | | | |
| 報告 | 第10号 | 平成26年度新庄市一般会計補正予算(第4号)の専決処分の承認について | 了承 |
| 議案 | 第73号 | 萩野地区小中一貫教育校建設工事の内機械設備工事請負契約の締結について(平成25年議案第43号)の一部変更について | 可決 |
| | 第74号 | 萩野地区小中一貫教育校建設工事の内電気設備工事請負契約の締結について(平成25年議案第44号)の一部変更について | 可決 |
| | 第75号 | 新庄市特別職の職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例の設定について | 可決 |
| | 第76号 | 新庄市一般職の職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例の設定について | 可決 |
| | 第77号 | 新庄市市税条例の一部を改正する条例の制定について | 可決 |
| | 第79号 | 新庄市民文化会館の管理を行わせる指定管理者の指定について | 可決 |
| | 第80号 | 雪の里情報館の管理を行わせる指定管理者の指定について | 可決 |
| | 第81号 | 新庄市山屋セミナーハウスの管理を行わせる指定管理者の指定について | 可決 |
| | 第82号 | 新庄市屋内ゲートボール場の管理を行わせる指定管理者の指定について | 可決 |

| | | | |
|------|--------------------------------------|--|----|
| 第83号 | 新庄市体育施設設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について | 可決 | |
| 第84号 | 新庄市災害弔慰金の支給等に関する条例の一部を改正する条例の制定について | 可決 | |
| 第85号 | 新庄市老人福祉施設設置条例を廃止する条例の設定について | 可決 | |
| 第86号 | 財産の無償譲渡について | 可決 | |
| 第87号 | 新庄市福祉事務所設置条例の一部を改正する条例の制定について | 可決 | |
| 第88号 | 新庄市国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定について | 可決 | |
| 第90号 | 平成26年度新庄市国民健康保険事業特別会計補正予算(第2号) | 可決 | |
| 第91号 | 平成26年度新庄市交通災害共済事業特別会計補正予算(第2号) | 可決 | |
| 第92号 | 平成26年度新庄市公共下水道事業特別会計補正予算(第2号) | 可決 | |
| 第93号 | 平成26年度新庄市農業集落排水事業特別会計補正予算(第2号) | 可決 | |
| 第94号 | 平成26年度新庄市介護保険事業特別会計補正予算(第2号) | 可決 | |
| 第95号 | 平成26年度新庄市後期高齢者医療事業特別会計補正予算(第1号) | 可決 | |
| 第96号 | 平成26年度新庄市水道事業会計補正予算(第2号) | 可決 | |
| 第97号 | 財産の処分について | 可決 | |
| 議会案 | 第7号 | 少人数学級の推進及び義務教育費国庫負担制度の改善を求める意見書の提出について | 可決 |
| | 第8号 | 米の需給安定対策に関する意見書の提出について | 可決 |
| | 第9号 | 農協改革に関する意見書の提出について | 可決 |

審議された議案等で賛否が分かれたもの

○ → 賛成 ● → 反対 - → 棄権

| 議案等番号 | 会派名 | 絆の会 | | | | | 開成の会 | | | | | 市民・公明クラブ | | | | | 会派に属さない議員 | 採決結果 | | | | |
|--------|----------------------------|------|------|------|------|------|------|-----|-----|------|------|----------|------|-------|------|------|-----------|------|------|------|------|----|
| | | 石川正志 | 佐藤義一 | 小嶋富弥 | 清水清秋 | 新田道尋 | 山口吉静 | 森儀一 | 伊藤操 | 奥山省三 | 沼澤恵一 | 小関淳 | 遠藤敏信 | 高橋富美子 | 佐藤卓也 | 平向岩雄 | | | 小野周一 | 下山准一 | 佐藤悦子 | |
| 議案第78号 | 新庄市いじめ防止等対策推進条例の設定について | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ● | 可決 | |
| 議案第89号 | 平成26年度新庄市一般会計補正予算(第5号)について | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ● | 可決 |

※議長は採決に参加しません。

請願の審議結果

| 件名 | 請願者 | 紹介議員 | 結果 |
|------------------------------|---|--------------|----|
| 少人数学級の推進及び義務教育費国庫負担制度の改善について | 新庄市大字本合海1127番9号 山形県教職員組合最上地区支部 支部長 伊藤 充弘 | 伊藤 操 遠藤敏信 | 採択 |
| 米の需給安定対策に関する件について | 新庄市沖の町5番55号 新庄市農業協同組合 経営管理委員会 会長 伊藤 浩栄 | 清水清秋 | 採択 |
| 農協改革に関する件について | 新庄市沖の町5番55号 新庄市農業協同組合 経営管理委員会 会長 伊藤 浩栄 | 清水清秋 | 採択 |

12月定例会の経過

12月5日(金) 開会 (議案説明等)

| | | | | | | | | | |
|--------|--------|--------|--------|--------------|--------------|--------------|--------------|-------|-------|
| 15日(月) | 14日(日) | 13日(土) | 12日(金) | 11日(木) | 10日(水) | 9日(火) | 8日(月) | 7日(日) | 6日(土) |
| 最終日 | 休会 | 休会 | 休会 | (産業厚生) 常任委員会 | (総務文教) 常任委員会 | (一般質問5名) 本会議 | (一般質問5名) 本会議 | 休会 | 休会 |

とぴっくす

議場が新しく生まれ変わりました

今までは、一般質問の際に議長席前の演台又は自席で質問していましたが、質問席を設置する議場改修を行い、市長と議員が対面方式で質問を行う形に変わりました。これにより市長と議員のやり取りが、更にわかりやすくなりました。

また、審議された議案等で賛成反対が分かれた場合、議場内のモニターやインターネット中継の映像に議員の賛成反対が表示されることとなりました。

これからも開かれたわかりやすい議会を目指してがんばってまいります。



一般質問

一般質問は、12月8日と9日の2日間、10名の議員が行いました。
質問の要旨は、質問者の原稿のとおり掲載しました。

12月定例会一般質問の質問者と質問事項

森 儀一

1. 企業誘致と人口減少対策について
2. 道の駅構想について
3. 市有財産の建物の今後の建て替え・改修について
4. 市有施設東高柔道練習場のトイレの改修について

伊藤 操

1. 2年続きで開催された「地域リーダー講座」の今後の取り組みについて
2. 市体育館の改修工事による閉鎖中の利用者への対応について
3. 健康福祉推進員の活躍について

山口 吉静

1. ふるさと納税について
2. 市営学習塾について
3. 空き家問題について
4. 市内商業地域の電線地中化について

佐藤 卓也

1. 新庄まつりの将来について
2. 山形DCの検証について
3. 子育て環境充実による定住促進について

小関 淳

1. 地域おこし協力隊の役割について
2. 職員研修について
3. 定住促進策の充実について

石川 正志

1. 新庄市における土地利用型農業の方向性について
2. 農業への市の支援の方向性について

小野 周一

1. 都市データパックの評価について
2. 二期目の山尾市政について
3. 地方創生に向けた本市の取り組みについて
4. 農業振興について

佐藤 義一

1. 道の駅の設置について
2. 交流人口拡大に向けて
3. 空き家条例のその後について

高橋富美子

1. 婚活支援について
2. 認知症対策について
3. 読書による人づくり、街づくりについて

佐藤 悦子

1. 米価下落対策について
2. 福祉施設の充実で、格差解消をめざすことについて
3. 介護保険の大改悪で、サービスの切り捨てを許さないことについて



森 儀 一 議員

ふるさとを守り活性化したい

◎「伝統のある故郷を守り、美しい日本を支えているのは、中山間地に住んでいる人達です。この故郷を消滅させないように」と言われています。当市の企業誘致や人口減少対策は。

市長 人口減少への対応として、「定住促進策強化プロジェクト」として検討を行っております。今年度は子育て世帯の負担軽減を図るため12月から子育て医療制度の対象を中学3年生まで引き上げたところです。今後も定住人口増加に向け取り組んでまいります。企業誘致の状況ですが、平成24年以降新規の企業進出が6件と企業の進出が活発化しています。定住人口増加のためには働く場の確保が重要な政策と考えており、今後新規立地と雇用拡大に向けた



取り組みを進めていきます。

◎東北中央自動車道尾花沢新庄道路全線開通・泉田道路の工事着手と整備されてきているのに伴い、地域拠点として道の駅構想はないのか。

市長 以前の道の駅は、通過する道路利用者へのサービスが中心でしたが、近年の道の駅は、地域の個性に合わせて、その役割が進化しており、物産品の販売などの産業振興、災害時の避難所などの機能も盛り込まれています。このような地域外から活力を呼び、地域の元気を創る道の駅の存在は地域活性化の拠点として有効に機能しているところもあるようです。今後の更なる整備促進が図られる中で、交流人口の増加や地域としての拠点づくりとしての効果も期待できる地域活性化の一つの方策として、街なかへの観光客の誘導といった点も見据えながら諸課題の整理と検討をしております。

活力ある市民活動へのサポートを問う



伊 藤 操 議員

◎平成27年5月より、市体育館が改修工事に入り、1年間利用できなくなり、利用者にとっては活動を一部制限される場合も出てきますが、その間のサポートはどのようなように図られるのでしょうか。

教育長 この度の市体育館の耐震改修は利用者の安全安心を図るために実施するものです。対応としては、従来から調整会議を実施している施設については調整会議を経てご利用いただくことになり、山屋セミナーハウス、農村環境改善センター、昭和活性化センターについては利用調整会議を実施し、ご利用いただくように考えています。また、農村環境改善センター、昭和活性化センターについては休館日を月一日へ変更し、使用日数を増やすことで進めてい

きます。改修工事の一年間については、ご不便をおかけいたしますが、ご理解いただきたいと思います。◎市内各地域に「健康福祉推進員」が選任されています。健康寿命の延長が注目されている昨今、委員の地域での活動への支援を伺います。

市長 健康福祉活動推進のため町内においてのリーダー役として現在162の町内から選出していただいています。ボランティアの位置づけであるため直接指導して頂く活動までは想定していません。「健康づくりは地域から」という理念の元に「地域の健康づくり」のパートナーとして、今後も情報提供を行い、地域における活動の推進役として、関係する庁内各課と連携しながら地域で活動しやすい環境づくりを進めていきます。



空き家問題について



山口 吉 静 議員

◎地方でも都市部でも空き家が増加し、防犯、防災等様々な問題が起ることから解体費用のうち市で全体の三分の一を補助できないかお伺い致します。

市長 空き家の解体費用については他の市民の方々との公平性を鑑みて所有者の負担が原則と考えております。ただし、自力での解体が困難な方について、市では方法の一つとして山形県住宅供給公社が進めている「まちの再生事業」の活用を関係各課と検討しています。市に空き家とその宅地を寄贈して頂くことで、その解体費用を市・公社・国側で負担するというもので、所有者が土地と家屋の所有権を市に譲渡するという条件付きではあります。今後の空き家問題を考えるうえでの選択

肢の一つになるものと考えております。

◎生活道路の無電柱化が日本は特に遅れています。市の景観の向上や観光の振興、防災上の問題などから、補助金を受けて無電柱化できないかお伺い致します。

市長 無電柱化を補助事業として実施するためには地方ブロック無電柱化協議会において協議する必要があります。また、地方公共団体、道路管理者、電線管理者、地下埋設物管理者のそれぞれの負担が必要となってくるなど、関係機関との合意形成の可否や費用対効果の検討が不可欠であることから、現在のところ新たな無電柱化は考えていませんが、国土交通省にて推進している次期無電柱化推進計画の動向を見ながら道路を含めた安全で快適な通行空間の確保に努めていきます。



今こそ将来を見据えた取り組みを

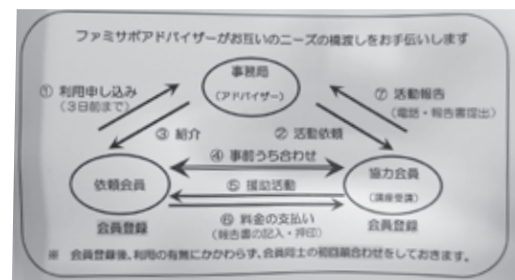


佐藤 卓也 議員

◎新庄まつりは来年260年を迎え、ユネスコの無形文化遺産登録に向けて検討されていますが、問題解決するためどのように取り組まれますか。

市長 新庄まつりについては、現在取り組んでいる外国人誘客推進事業により、情報発信を強化し、おもてなしや受入体制の整備を推進していきます。まつりの運営体制については現行の体制を見直し、新たな組織の確立と「新庄まつり百年の体計・第3期計画」に盛り込まれた各種施策の進行管理を推進するため、来年度「新庄まつり実行委員会」の設立に向け準備を進めています。喫緊の課題として、運営体制の改編など見直しを行いながら、市負担金の増額についても検討していきます。

◎子育て支援センターやファミリーサポーターセンターを知っていますか。



市長 平成27年4月から開始予定の「子ども・子育て支援新制度」は、

教育・保育施設へ入所している子どもへの保護者に対する教育・保育費用の給付事業と、自宅で保育を行っている保護者などすべての子育て世帯に対する支援のための地域支援事業の大きく2つの事業に区分されています。子育て支援センターとファミリー・サポート・センターも地域支援事業の1事業として法定化されていますので、子育て世代の方が数多く利用していると思われるSNSを活用するなどして事業内容や利用拡大に向けた周知を図ったり、その特性を利用して子育てサークルなどの関係団体同士の関係強化を図られるよう検討していきます。

*SNS……インターネット上で社会的なつながりを作るサービス。



小 関 淳 議員

住む理由を明確にする施策充実のために

◎市職員の能力向上は、これからを乗り越えるためには不可欠である。勇気ある魅力的な職員を養成するために、どのような特色ある研修をしているのか。

市長 市の人材育成基本方針に「市民をつなぐ」「未来へつなぐ」「成長につなぐ」という職員像を掲げ、地域を支えるという強い自負、課題等へ柔軟かつ積極的に対応する意欲と能力を有する職員が必要であると考え研修の拡充に努めているところです。職員の自主研修・研究活動への助成、若手職員グループの自発的な研修の取り組み等を継続し、職員の自己啓発意欲の向上を図っていく等、可能な限り多種多様な研修機会を設け、その力を結集して重要課題に立ち向かってまいります。

◎人口減少が加速する中、定住を促進するために多くの自治体が、子育て支援策などの様々な施策を充実させているが、当市でも『専門部署』を設け、積極的に進めるべきではないか。



市長 人口減少への対応は全国的に共通の課題となっております。人口減少対策に向けた国の動きでは「まち・ひと・しごと創生法」が成立し、人口の現状と今後取り組むべき将来の方向性を示した「長期ビジョン」、5年間で国が取り組む対策や目標を定めた「総合戦略」を策定することになっていきます。地方自治体にも地方版の「総合戦略」の策定が努力義務として定められており、市でも「総合戦略」を取りまとめ行動に移していきたいと考えています。「まちづくり総合計画」が平成28年度から後期5ヶ年となることから「総合戦略」と「まちづくり総合計画」がリンクする形で見直しを図り、それを実施するための組織のあり方、プロジェクトチームの設置などについて検討したいと考えています。

「里のほほえみ」で農業収益の確保を!



石 川 正 志 議員

◎県の奨励品種である「里のほほえみ」（新種の大豆）を普及する上で、排水対策や刈り取り体制、乾燥調整施設など生産基盤の強化が必要と思いますが、市長の考えを伺います。

市長 主食用米の需要が年々減少する中で、他の作物への転換を促進することで水田の維持・活用を図っていく必要があります。平成24年に県奨励品種に位置付けられたこの大豆により、この地域の過去5年間の平均単収に対して倍以上の収穫が見込まれれば、現行の主食用米より有益な単収金額が確保されることも可能となることから、この地域での一層の品質向上と生産の安定を図るための支援について国や県の支援策の情報を集めながら進めてまいります。



また、乾燥調整施設整備については、効率的な利用形態を推進するために関係機関と一体となった協議をしていきます。

◎飼料用米の地産地消の観点から、畜産振興や米倉庫など貯蔵施設への助成が必要と考えますが、市長の考えを伺います。

市長 畜産振興については平成27年度地域ぐるみで収益性を向上させる畜産クラスターの実証に係る支援や飼養管理施設の整備を支援する事業を行うとしており、現在市で実施している支援策とあわせ、関係機関と連携を密にして取り組んでいきます。また、貯蔵倉庫等の施設についてですが、整備に係る費用は大きなコストを要することから、今後、農協等からの計画の聞き取り、初期費用に対する支援策の可能性について調査していきます。

二期目の山尾市政について



小野周一 議員

◎一期目にやり残した公約を二期目の市政に重点的に取り組まれたのか。

本市の最重要課題でもある雪対策の流雪溝整備の進捗状況と、子育て支援対策の第3子誕生祝金制度を平成27年度予算で復活されているのか。

市長 大きな課題である雪対策については、道路の除排雪に力を入れる一方、地域に簡易除雪機を貸し出しするなど、きめ細やかな除雪体制を進めてきました。流雪溝の整備状況ですが、平成25年度末で計画の全延長91kmに対し48kmを終え、進捗率は52%となっています。必要とされる水源については、国交省への水利権申請により水量確保をしております。今後も流雪溝整備に合せた水量の拡大申請を行い、更なる水量の確保

保に努めてまいります。また第3子誕生祝金制度ですが、子育て支援という全体的な構想の中で取り組むということと慎重に取り扱いを進めているところです。任期の残された期間、市民の皆様と共に市政運営に取り組んでまいります。

◎大幅な米価下落はすでに農家の努力だけでは限界があります。持続経営に繋がる市独自の支援策と地域経済に与える影響についてお聞きします。

市長 当市における米価下落にかかる減少額については仮に出荷見込みを28万俵とし、平均下落を2千円で試算すると約5億6千万円の減少額となり稲作農家のみならず地域経済にとっても著しい損失を与えるものと危惧しています。この対応として、米価下落対策緊急資金の無利子化の対応をはじめ、米の直接支払交付金早期支給、仮渡金の追加払いの要請、米の需要拡大と輸出の促進など国や県、農業団体と一体となった取り組みを進めているところです。



道の駅の設置とスポーツ大会による交流人口の拡大を問う



佐藤義一 議員

◎様々な機能を有し地域の発信に多大な影響を持つ道の駅の設置を問う。

市長 道の駅は、ドライバーの「休憩機能」の外、「情報発信機能」そして「地域連携機能」を持つとされており、その機能が発揮されれば地域に活力が生まれ施設を介した地域づくりが促進されるものと考えています。設置にあたりましては、地方整備局から推薦を受けていただき企画提案の審査を受けなければなりません。このため、設置箇所、運営主体、運営方法と維持管理方法など多くの課題が考えられることから関係機関等の意見も聞きながら柔軟に対応してまいります。

◎スポーツイベント開催による交流人口の拡大のお考えを問う。



教育長 市で開催しているスポーツイベントとしては「いものこマラソン」「グリテリウム新庄大会」などがあり、いずれの大会においても広く県内外から参加いただいております。スポーツは健康のみならず町おこしや地域づくりのための大事な手法と考えておりますし、スポーツの大会をイベントとしてとらえ、「新庄の良さ」を感じていただける新庄らしいスポーツ競技大会等を開催することの必要性も感じています。来年度以降、県大会や全国大会、国際大会などの各種スポーツ競技大会が開催される予定でありますので、そのような機会も生かし、スポーツの面からの交流人口の拡大を図ってまいります。

*クリテリウム新庄大会……新庄中核工業団地を会場にした自転車競技大会。

超高齢社会に向けて



高橋 富美子 議員

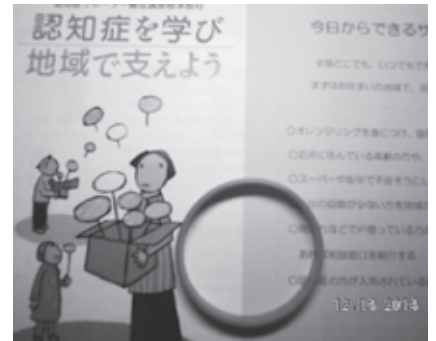
◎認知症対策及び市町村単位で創りあげる地域包括ケアシステムの取り組み状況と今後の実施計画についてお伺いいたします。

市長 現在、各種報道で取り上げられる認知症への関心が高まり、各方面から「認知症サポーター」養成講座の依頼があり、今年度は11月末現在で719名の方が受講しました。今後も受講者を増やしていくよう取り組んでいきます。また、地域包括支援センターが実施する地域ケア会議の定期的な開催で地域課題の解決に向けての共通認識の確立や認知症で困っている家族の支援の一助となるよう活用を図っていきたくと考えています。認知症対策については来年度からの「介護保険事業計画」策定に向けた計画委員

会の中でも更に議論を重ねてまいります。

◎婚活支援事業の具体的な取り組み状況及び成果についてお伺いいたします。また、より充実した婚活支援に向けた新庄市独自の事業実施についての考えをお伺いいたします。

市長 市では平成22年度に組織された最上広域婚活実行委員会に参加し、最上地域に暮らす未婚者全体をターゲットとした活動を行っています。これまで婚活パーティを含めて16回のイベントを開催し54組のカップルが成立しています。市独自の事業ということですが、単独ではなく地域全体で取り組んだほうが効果的であると考えており、県からの結婚・子育てに関する情報や動きも踏まえつつ、今後も地域全体の未婚者が結婚を前向きに捉えられるような意識啓発や、出逢い・結婚につながるような機会の提供に努めていきます。



新庄市の農業を守るために



佐藤 悦子 議員

◎米価の大幅下落で、農家は再生産の意欲を失っている。融資だけでなく、市独自の支援を行うべきではないか。国保税の市独自減免の拡充が必要ではないか。国民の主食である米の生産物価格保障は、国の責任ではないか。市長の見解を伺う。

市長 当市では当面の資金繰りをサポートするため、米価下落対策緊急資金の無利子化の対応を行うとともに、国や県、農業団体と一体となった取り組みを進めているところです。国保税の減免については、地方税法に規定されており、市税条例で改めてその内容を定め、市報など様々な方法で周知に努めています。独自減免制度の拡充につきましても、国保税の拡充に努め、国保税と現段階では困難であると考えます。米の価格保障に

ついては、多面的機能支払交付金の拡充、認定農業者の拡大、集落営農の組織化を進めているところであり、現行の収入減少影響緩和対策の拡充による経営の安定化を求めたいと思います。

◎福祉灯油の実現、第3子保育料無料化の拡充、移動支援事業の対象者の拡大で、市民を励ますべきだ。

市長 最近の原油価格の動向として、6月のピークと比較し11月現在において約30%下落しており、今後とも原油価格は下落するものと思われています。こうした状況の中、今冬に向けた福祉灯油の実施については、今のところ考えていませんが、県の判断において昨年度のような緊急対策が実施される場合は検討していきます。第3子以降児童の保育料免除事業については、この事業を開始して2年目であり、さらなる効果向上を図るうえで事業の検証が必要であること、幼稚園入園児の保護者と保育所入所児の保護者との費用負担の均衡性を考慮する必要があることから時間をかけて慎重に検討を重ねていきたくと思っています。移動支援事業の対象者の範囲については拡大を求める意見が出てきており、全国的にも広げる傾向にあります。これらの状況をふまえ平成27年度からの「新庄市障がい福祉計画」において、移動支援事業における対象者の拡大について議論していきます。

このまちを 行政視察報告

絆の会

○視察参加議員（議席順）

- 石川 正志 佐藤 義一
- 小嶋 富弥 清水 清秋
- 新田 道尋 森 儀一

○視察日程・調査事項（視察先）

1. 官民共同運行ふれあいバス
（北海道当別町）
平成26年10月21日
2. 議会報告会・意見交換会
（北海道小樽市）
平成26年10月22日
3. 廃棄物処理およびリサイクル
事業
（北海道富良野市）
平成26年10月23日

○視察内容

当別町では、事業者の路線バス、行政の福祉バス更に医療機関と地域限定の送迎バスを効率的に「一元化」を図っている事が大きな特徴です。も一つの特徴としてバスの燃料としてBDF（食用油のリサイクル）を使用し、環境配慮型の運行をしていることです。ご年配のご婦人がコ

ミュニティバスで福祉施設まで出かける事が新しい「生き甲斐」とのこと。地域公共交通の整備は、単に住民の足の確保だけに留まらず、住民の暮らしの質まで向上させられると再認識させられました。

「燃やさない・埋めない」を基本理念としている富良野市のゴミの分別収集と資源化については、平成25年度で資源化率が89・7%であり、新庄市の25・4%（平成22年度）と比較して、非常に高い水準にあります。可燃ゴミの内、生ゴミは全て堆肥化され有料で農家に供給され、紙くず、紙製容器、衣類、革製品などはリサイクルセンターにおいて固形燃料として資源化され、石炭の代替え品として販売されています。

（文責 石川 正志）



開成の会

○視察参加議員（議席順）

- 奥山 省三 小関 淳
- 伊藤 操 沼澤 恵一
- 遠藤 敏信

○視察日程・調査事項（視察事項）

1. 人口減少対策（長野県大町市）
平成26年10月22日
2. 健康寿命延長の取り組み
（長野県松本市）
平成26年10月22日
3. 定住化促進事業
（長野県飯島町）
平成26年10月23日

○視察内容

少子高齢化社会が一層進む中、人口減少抑制を最重要課題として施策を打ち出し、事業を積極的に展開している自治体が増えてきています。大町市の場合、県が連携して定住促進事業を進めており、関係者は「今や移住者の呼び込みは、戦国時代に入っている」とさえ述べておりました。

新庄市では、平成23年3月に策定した「第4次新庄市まちづくり総合計画」で、10年後の人口を37、000人と設定していますが、早くもそのラインに近づいています。県とタイアップした、本格的な定住促進策を進める必要性を強く思ったとこ



ろです。

長寿日本一の長野県は、県全体で健康寿命に向けて自治体それぞれが特色ある施策を展開しています。松本市の場合、市長自身が医師であることから、高齢者の健康管理については元より、「生活の健康」「地域の健康」「環境の健康」「経済の健康」「教育・文化の健康」を市制運営の柱に掲げているとのことでした。すでに「健康寿命延伸都市宣言」を策定しており、出前講座的に行政と市民、産業界、学校がリンクして健康寿命を延ばすための細やかな改善メニューを事業化していることを視察してきました。（文責 遠藤 敏信）

11月20日、21日第6回議会報告会を開催しました。

11月20日、21日の両日に、市内5会場で第6回議会報告会を開催しました。質疑応答では、ご参加いただいた市民の方々から市政に関する様々な声をいただくことができました。6月にも予定しておりますので、一人でも多くの市民の方々のご参加をお待ちしております。

○開催日時と会場及び市民参加者数

| 開催日 | 会場 | 班 | 市民参加者(人) | 各会場担当議員 |
|-----------|---------|---|----------|--------------------------------------|
| 11月20日(木) | 萩野地区公民館 | B | 6 | A班 小関 淳、平向岩雄、石川正志 下山准一、佐藤悦子、沼澤恵一 |
| | わくわく新庄 | C | 20 | |
| 11月21日(金) | 雪の里情報館 | A | 6 | B班 小嶋富弥、奥山省三、遠藤敏信 清水清秋、伊藤 操、佐藤義一 |
| | 新庄市民プラザ | B | 11 | |
| | 八向地区公民館 | C | 8 | C班 森 儀一、小野周一、山口吉静 新田道尋、佐藤卓也、高橋富美子 |

※開催時刻は、いずれの会場も午後7時開会

市民に開かれた議会、市民とともに歩む議会を目指し、平成24年の5月から年2回開催している議会報告会は、6回目を数え、今回は11月20(木)・21(金)日に、市民プラザなど市内5会場で開催しました。

およそ1700ある全国の市町村議会で、住民との対話の機会である「議会報告会」を実施しているのは4割程度となっており、す。しかし、議会報告会を通して住民と対話し、そこで浮き彫りになった地域課題を議会として議論し、政策提言に結び付けているケースはというと、ほんの一握りしかない、というのが現状のようです。

その第6回新庄市議会報告会では、通常通り9月定例会の内容報告を行った後、過去の報告会で最も意見が多かった「雪対策」を中心に参加者との意見交換を行いました。

雪対策については地域ごとに様々な課題があり、今回は各会場の意見などを極力尊重しながら、すぐに対応しなければならぬケースについては、議会として市長に申し入れ、流雪溝整備に関する問題や、道路の除排雪に関わる

議会報告会では

様々な雪問題に関する苦情・相談窓口を一本化することなどの意見については、今後十分に調査・検討し、議会の政策提言書として市長に提出することとしています。

報告会では、定例会や委員会の内容の報告と、時には議会の仕組みや役割などを説明しています。が、なにより、参加者と議会が気軽に質疑応答のできる機会でもあるのが「議会報告会」の特徴です。

これまでの参加者アンケートでは、9割以上の方々から「参加してよかった」という感想をいただいています。「議会なんか何してかわがらね」などと評価をする前に、しっかりと議会の活動に目を向けていただき、その上で厳しいご意見をいただければと思います。次回の「議会報告会」には、是非、多くの皆さんの参加をお待ちしています。

議会が一丸となり、市民福祉向上のために進めている議会改革は、まだまだ道の途中です。市民の皆様には、一層のご理解とご協力をお願いいたします。

(文責 小関 淳)

秋の叙勲 旭日小綬章

元市議会議員 渡部 平八氏

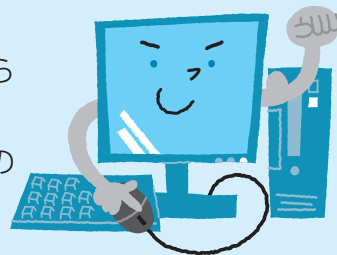
永年にわたり地方自治振興発展のため努力を続けられた功績が認められ、平成26年11月3日付で栄えある受章をされました。
ここに渡部氏のご功績に対し深甚なる敬意を表しますとともに、この栄誉を衷心よりお喜び申し上げます。

本会議の様様をインターネットで中継しています

新庄市議会では、「市民に開かれた議会」をめざし、一昨年(2019年)の9月定例会から本会議の様様をインターネットにより中継しています。

議会へ傍聴にお越しになれない市民の皆さんのため、自宅等にしながら議会の生中継及び録画中継をご覧になることができるようになりました。

録画中継についてはいつでも見ることができるので、市ホームページの議会のサイトにアクセスしてください。



議会を傍聴しませんか

— 市民の皆さんの意見が反映されていますか —

どなたでも議会を傍聴することができます。当日直接議会事務局にお越しください。受付簿に住所・氏名を記入していただく他は、面倒な手続きはありません。

(傍聴席に限りがありますので、団体の場合は事前に議会事務局までご連絡ください。)

表紙写真を募集します

1. 募集内容

新庄市の行事や風景等で、必ず人物が写っている写真作品。

2. 応募規定

写真は次の①～⑤全てに該当するもので、各時期の議会だよりにつき1人2点まで応募できるものとします。

- ①応募者本人が新庄市内において撮影したもの。
- ②他の媒体などに応募していないもの(未発表のもの)。
- ③メールやUSB等のデータ(JPEG形式)で提供できるもの。
- ④写真に写っている人物の許可を得ているもの。
- ⑤A4縦の表紙にサイズがあうもの。

※詳しくは、HPをご覧ください。

3月定例会の予定

| | |
|---------|---------|
| 3月4日(水) | 開会 |
| 5日(木) | 一般質問 |
| 6日(金) | 一般質問 |
| 7日(土) | 休会 |
| 8日(日) | 休会 |
| 9日(月) | 常任委員会 |
| 10日(火) | 常任委員会 |
| 11日(水) | 予算特別委員会 |
| 12日(木) | 予算特別委員会 |
| 13日(金) | 予算特別委員会 |
| 14日(土) | 休会 |
| 15日(日) | 休会 |
| 16日(月) | 休会 |
| 17日(火) | 最終日 |
| 20日(金) | 休会 |

※17日(火)は、2月20日(金)までと
なっています。
※一般質問者数により若干日程が
変わります。

あとがき



いつもの年より早い根雪となり、正月前に一度雪下ろしをしたという家庭も多いことかと思えます。

雪国に生きることの厳しさを覚える季節の到来です。

雪がしんと降っています。その下で人は暮らしています…

何十年か前の小学校の教科書に載せられた小学生の詩の一節ですが、その当時は正に雪の下での生活だったと言えるかもしれません。

小路は踏み固められた雪で高くなり眼下に窓が見えたり、家の前に掘った階段を下りて玄関に向かったりの生活もありましたが雪国に生きる人々は少しずつ克服してまいり、生活様式も大分変わりました。

雪とともに生きることへの対応をとってきたと言えるかもしれません。

「冬来たりなば、春遠からじ」の言葉のように、春はそんなに遠くありません。

大雪の季節を闘い、厳冬期を耐えた雪国の人々しか感じることのできない陽春を迎えましょう。

寒い日々が今後も続きます、ご自愛をお祈りいたします。

議会報編集委員 佐藤 義一